

みんなで災害に強い町づくりに参加しよう！

安城市地区防災計画策定の手引き

概要版

地区防災計画とは

平成25年6月に災害対策基本法が改正され、「地区防災計画」の考えが新たに創設されました。地区防災計画は、市内の一定の地区内の居住者及び事業者が主体的に行う防災活動に関する計画です。いうなれば「地区の自助・共助の計画」です。安城市では、原則として自主防災組織単位での地区防災計画の策定を想定しています。



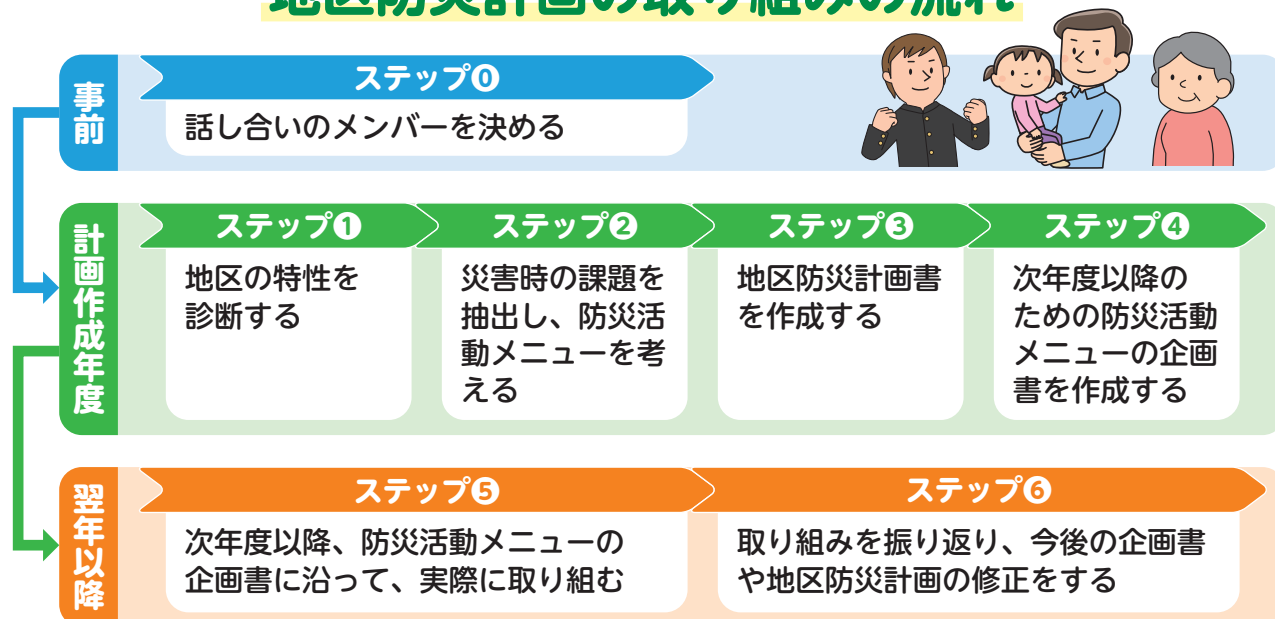
地区防災計画は、実際に地区に住み、地区の特性をよく把握している皆さんの手によって、自由に行うことができます。水害や地震が発生した時に生じる地区の不安や課題は何かを自分たちで調べ、解決するためのアイデアを考えて計画化し、できることから取り組めるので、とても参加しやすい地域防災活動です。また、作った計画は、市防災会議に対して、市地域防災計画に規定するよう提案することもできます。

なぜ作る必要があるのか

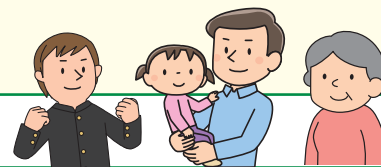
災害から身を守るためには、自らが災害に備える「自助」や、避難情報や指定緊急避難場所の提供・救命救助など行政による「公助」ももちろん大切ですが、これまでの実際の災害において、避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い・支え合いの「共助」は欠かせません。阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された全体の約8割の方は、家族の自助や近隣の方々の共助により救出されています。地区のみんなが助かるために、共助の力を強くすることがとても重要です。

地区防災計画を作成することがゴールではなく、計画の作成過程や実施を通して、地区の不安や課題を整理し、何ができるかを皆で話し合い、準備・対策・訓練を行うことが、いざという時に地域の中で助け合う第一歩になります。

地区防災計画の取り組みの流れ



ステップ0 話し合いのメンバーを決める



ステップ①～④の話し合いに、誰を呼ぶのかを決めましょう。幅広い意見を聞くために、なるべく年齢・性別・立場が異なるメンバーを集めましょう。毎回大勢集まるのが難しければ、ステップ②の課題抽出と防災活動メニューを考えるとだけでも、様々な人に出席を求めたり、事前に意見聴取しておくなどの方法もあります。

ステップ1 地区の特性を診断する



目的

ハザードマップ等を活用した災害のリスクの確認や、災害の歴史について再確認するなど、地区の特性診断を行います。

進め方

「地区診断表」を活用して情報を整理します。災害のリスクや普段の地域力などについて、診断することで、地区の強みや課題が見えやすくなります。

ステップ2 災害時の課題を抽出し、防災活動メニューを考える

目的

備蓄や避難方法、安否確認など災害に対して不安に思うことを地区の課題として捉え、対策の検討を行います。

進め方

「地区の課題と防災活動メニュー整理シート」に、災害が発生したら不安なことを書き出し、それを解決するための防災活動メニューを考えます。



★「地区の課題と防災活動メニュー整理シート（抜粋版）」

時系列	災害時の不安（例）	課題分類（例）	防災活動メニュー（例）
平常時	室内の安全対策のやり方が分からない	家の安全対策	市のまちかど講座などに申し込む 防災訓練で啓発する
	水以外用意していない	備蓄品の準備	防災訓練のときに各家庭での備蓄推進の啓発をする
災害直前	インターネットが使えないので情報収集が心配	避難のタイミング	災害時の情報収集の講習会を開催する
	安全な道が分からない	避難・安否確認	防災マップを作る、各世帯で避難ルートをイメージするよう啓発する
災害発生時	生き埋めになった人をどう救助するか	避難・安否確認	ボールやジャッキ等を備蓄し、使い方講習を開催する
	避難所に行かなくても支援はしてもらえるのか	避難生活	在宅避難者への支援の啓発や訓練を実施する
復旧・復興期	何をどうすれば良いのかイメージができない	避難生活	過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する
	仮設住宅に入ったら知り合いがいなくて不安	地域コミュニティの再生	過去の災害の体験者を呼んで勉強会を開催する

ステップ③ 地区防災計画を作成する

目的

ステップ①～②で話し合った内容や、過去に作成した防災マップ、地区のルールなどを取りまとめ、計画書の作成を行います。

進め方

「地区防災計画書ひな型」に沿って、地区防災計画として次年度以降に引き継ぎたい内容を計画書に記載します。



ステップ④ 防災活動メニューの企画書を作成する

目的

次年度以降に活動する内容を整理し、いつ・どこで・誰が・どのように行うのか、具体化するための企画書を作成します。

進め方

ステップ②で考えた防災活動メニューの中から、優先順位の高いメニューを選びます。選んだメニューを「防災活動メニュー企画書ひな型」に沿って具体化します。作成した企画書をもとに、当面3年間の実施予定を作成します。



ステップ⑤ 防災活動メニューの企画書に沿って、実際に取り組む

目的

企画書に基づいて防災活動に実際に取り組み、作業内容の確認や、参加者の反応、実働性など、防災活動メニューの効果測定を行います。

進め方

企画書に沿って、予定していたプログラムを実施し、参加者へのヒアリングやアンケート調査などを行います。



ステップ⑥ 取り組みを振り返り、次年度以降の計画書や地区防災計画の修正をする

目的

防災活動メニューの目的の達成状況を確認するための評価をします。

進め方

「防災活動実施評価表」を使って、取り組みと課題を整理します。その結果を活かしつつ、翌年以降の3年間の企画書とスケジュールを作成し、必要に応じて、地区防災計画書を修正します。



質問コーナー

安城市地区防災計画策定マニュアル検討会議
などでの質問から抜粋

Q1 ここでいう地区とは、 どの範囲を指すのですか？

安城市では、普段から地域の防災活動に取り組んでいただいている「自主防災組織」単位での地区防災計画の作成を想定しています。



Q2 私たちの自主防災組織では、既に様々な 防災活動を行っています。それでも、 地区防災計画を作る必要があるのでしょうか？

すでに実施している活動や作成済みのルールがある場合は、ぜひそれも地区防災計画に反映してください。現在の取り組みを整理して、客観的に眺めることで新たな課題や新しいアイデアが出てくるかもしれません。また、地区によっては自主防災組織の役員が毎年変わる場合があります。地区防災計画を作ることで、次年度以降も防災活動を継続しやすい体制を作る助けにもなれると思います。

Q3 私たちの自主防災組織は、あまり活発ではないので 計画づくりは負担感が大きいし、せっかく作っても絵にかいた餅にならないか心配です。

地区防災計画は、取り組む過程で、地区に存在する不安や課題を共有することで地区の皆さんの危機感や災害への認識を改めることが狙いのひとつにあります。地区からは「みんな忙しく、新しく計画を作る余裕はない」、「伊勢湾台風でも被害がなかったので自分の地区は大丈夫だと思っている。地区での防災活動の必要性を感じる人も少ない」、「防災対策の必要性は分かっているが、何から手を付けてよいのか分からない」という意見や悩みも聞かれます。

計画は、手引きに書かれている4つの手順に沿って取り組みれば作成できるよう工夫されています。まずは、自分たちができる無理のない範囲の活動を見出すためのきっかけづくりと捉え、チャレンジしてみましょう。

また、手引きに沿って作成した場合、計画には「地区で実施したい今後の防災活動」が掲載されますので、次年度以降の防災活動を考える参考資料とすることができます。

Q4 地区防災計画は、地震と水害、 どちらのケースで作成すれば よいのでしょうか？

想定する災害は、自主防災組織の皆さんが選ぶことができます。どちらかに絞ってもよいですし、両方を想定して頂いてもかまいません。ただし、地区の不安や課題を整理すると、地震と水害両方に共通するものも多いので、両方を想定した計画を作ることをおすすめします。

Q5 他の地区のような 立派な計画は作れそうもないのですが。

地区防災計画策定の初年度に、内容が濃く、たくさんの資料が添付された素晴らしい計画書を完成させようと無理する必要はありません。まずは基礎的な内容の計画書を作り、次年度以降に地区の活動を通して、少しずつ計画書の内容を深めることが大切です。地区の防災活動の充実とともにゆっくりと計画書を育てましょう。

令和3年3月発行

編 著 安城市危機管理課、認定NPO法人レスキューストックヤード

発行者 安城市危機管理課 (0566-71-2220)